

平成31年度
劇場・音楽堂等機能強化推進事業
(地域の中核劇場・音楽堂等活性化事業)
成果報告書

| | | |
|---------------|---------------------|------|
| 団 体 名 | 公益財団法人 北九州市芸術文化振興財団 | |
| 施 設 名 | 北九州市立響ホール | |
| 助 成 対 象 活 動 名 | 公演事業・人材養成事業・普及啓発事業 | |
| 内定額(総額) | 27,253 | (千円) |
| 公演事業 | 20,763 | (千円) |
| 人材養成事業 | 954 | (千円) |
| 普及啓発事業 | 5,536 | (千円) |

1. 事業概要

(1) 平成31年度実施事業一覧【公演事業】

| 番号 | 事業名 | 主な実施日程 | 概要 (演目、主な出演者、スタッフ等) | 入場者・参加者数 | |
|----|----------------------------------|--------------------------|---|----------|-------|
| | | 主な実施会場 | | 目標値 | 実績値 |
| 1 | 響ホールプロデュース ①創作オペラ | 2/2 | モーツァルトの歌劇「フィガロの結婚」を劇作家の泊篤志が設定を現代に移し演劇的要素を加えて再構成。 | 目標値 | 437 |
| | | 響ホール | | 実績値 | 443 |
| 2 | 響ホールプロデュース ②創作バレエ | 6/23 | 地元バレスタジオの協力のもと、チャイコフスキ「くるみ割り人形」より名場面や小品を集め40分に凝縮したガラ公演を創作。 | 目標値 | 400 |
| | | 響ホール | | 実績値 | 573 |
| 3 | リサイタル・シリーズ～アーティスト・イン・レジデンス～ | 公演日 7/7、9/7、2/8、2/29(中止) | 南紫音、仲道郁代、金子三勇士、瀧村依里・朴葵姫 | 目標値 | 1,215 |
| | | 響ホール | | 実績値 | 1,383 |
| 4 | 0歳からの親子で楽しむクラシックコンサート | 12/21 | 新居由佳梨、磯絵里子ほか。本格的な楽曲や馴染みのある曲や、ダンスと音楽の融合で大人から子どもまで楽しめるプログラム構成。 | 目標値 | 528 |
| | | 響ホール | | 実績値 | 522 |
| 5 | 2019北九州国際音楽祭 公演事業 プロデュース企画①(4公演) | 10/6、12、27、11/2 | 10/6 ダン・タイ・ソン、10/12 森麻季・鈴木優人、10/27 マスターアール×ライジングスターオーケストラ、11/2 米元響子・上村文乃・菊池洋子ほか | 目標値 | 2,050 |
| | | 響ホール | | 実績値 | 1,916 |
| 6 | 2019北九州国際音楽祭 公演事業 プロデュース企画②(2公演) | 10/18、11/8 | 10/18 谷口英治[ジャズクラリネット]・有田純弘[ギター]・丹羽肇[ベース] 11/8 LEO[箏] | 目標値 | 180 |
| | | 西日本工業倶楽部 | | 実績値 | 191 |
| 7 | 2019北九州国際音楽祭 公演事業 招聘企画(1公演) | 11/24 | マレク・ヤノフスキ指揮 ケルン放送交響楽団 チョ・ソンジン[ピアノ] | 目標値 | 1,300 |
| | | アルモニサンク 北九州ソレイユホール | | 実績値 | 1,270 |
| | | | | 目標値 | |
| | | | | 実績値 | |
| | | | | 目標値 | |
| | | | | 実績値 | |
| | | | | 目標値 | |
| | | | | 実績値 | |
| | | | | 目標値 | |
| | | | | 実績値 | |
| | | | | 目標値 | |
| | | | | 実績値 | |

(3) 平成31年度実施事業一覧【普及啓発事業】

| 番号 | 事業名 | 主な実施日程 | 概要 (演目、主な出演者、スタッフ等) | 入場者・参加者数 | |
|----|---------------------------------------|-------------------------------------|--|----------|-------|
| | | 主な実施会場 | | 目標値 | 実績値 |
| 1 | ワンコイン・シリーズ～アーティスト・イン・レジデンス～ | 4/26、6/11、8/28、 10/23、12/19、2/18 | 津野田圭、カレット・スピリタス、加藤文枝、 前田啓太、入江一雄、西本幸弘 | 目標値 | 1,920 |
| | | 響ホール | | 実績値 | 1,879 |
| 2 | 地域訪問コンサート～アーティスト・イン・レジデンス～ | 6月～2月 計19回 | リサイタル・シリーズやワンコイン・シリーズの出演者が本公演前に訪問コンサートを実施。 | 目標値 | 1,500 |
| | | 市民センター、小学校等 | | 実績値 | 1,171 |
| 3 | 響ホールフェスティバル | 6/22～23 | 公演を中心に様々な関連イベントを実施し、ホールが「まちの文化広場」になるべく、誰もが文化に触れて、楽しめる2日間。 | 目標値 | 2,000 |
| | | 響ホール | | 実績値 | 3,402 |
| 4 | YAHATA MUSIC PROJECT ～音楽でつながる人とまち～ | 通年 | JICA九州、商業施設、学校、図書館、企業等とホールが連携しながら、誰もが暮らしやすい地域環境を目指し取り組んだ。 | 目標値 | 1,300 |
| | | 響ホールほか | | 実績値 | 1,272 |
| 5 | 2019北九州国際音楽祭 教育プログラム(2事業) | 10/29、11/1 | 音楽祭オリジナルオケのメンバーによる弦楽四重奏の小学校訪問コンサートと、米元響子らによるピアノ・トリオによるホールステージ上での幼稚園児対象のコンサート | 目標値 | 600 |
| | | 市内小学校、響ホール | | 実績値 | 365 |
| 6 | 2019北九州国際音楽祭 特別プログラム(6事業) | 8月～11月 | 公演事業を補完するものとして、聴きどころ講座や施設訪問コンサート、子ども対象の夏休みイベントなどを実施。 | 目標値 | 1,960 |
| | | 響ホールほか | | 実績値 | 883 |
| | | | | 目標値 | |
| | | | | 実績値 | |
| | | | | 目標値 | |
| | | | | 実績値 | |
| | | | | 目標値 | |
| | | | | 実績値 | |
| | | | | 目標値 | |
| | | | | 実績値 | |
| | | | | 目標値 | |
| | | | | 実績値 | |

2. 自己評価

(1) 妥当性

| 自己評価 |
|--|
| 社会的役割（ミッション）や地域の特性等に基づき、事業が適切に組み立てられ、当初の予定通りに事業が進められていたか。 |
| <u>社会的役割</u> 地域の一員として「人」と向き合い「人」とともに新しい価値の創造と発信を行う。 |
| <u>地域の特性</u> 当ホールのある八幡東区は高齢化率市内第1位であるが、ホールは JICA 九州や九州国際大学に隣接する国際交流エリアに位置し、多様な交流人口が生まれる可能性を持つ地域でもある。 |
| <u>音楽事業に対するニーズ</u> 創造性の高い公演、海外オーケストラや世界的アーティストの公演、クラシックに馴染みがなくとも聴きやすい公演、未就学児入場可能な公演、子どもたちの育成、多くの人が音楽に親しむ機会の増加 公演事業では、オリジナル作品創作や国内外のトップアーティスト公演など、通年で多岐にわたるラインナップを組み、人材養成事業では、中学校合唱講習会とアーツスタッフ人材養成講座を開催。普及啓発事業では、観客育成、地域との連携・協働などを目標に掲げ、訪問コンサート等により、多くの方に音楽を届けた。 いずれの事業もホールの社会的役割や地域特性に基づいた組み立てを行い、最寄駅から上り坂が続く立地のため公演日にはお迎えバス（またはタクシー）を運行し、概ね当初予定どおりに事業を遂行することができたが、公演事業のうち1本、人材養成事業のうち1事業について、新型コロナウイルス感染拡大防止のため中止した。 |
| 助成に値する文化的、社会的、経済的意義等が継続して認められるか。 |
| <u>文化的意義</u> 公演事業：作品創作や国内外のトップアーティスト招聘 人材養成事業：地域の文化発展に有用な専門人材の養成 普及啓発事業：ワンコイン・コンサート等での新たな聴衆の獲得や、各種講座による音楽に触れる機会の提供。 |
| <u>社会的意義</u> 公演事業：質の高い公演の鑑賞機会の市民への提供、また、若い世代にも芸術性の高い公演が鑑賞可能となるよう25歳以下チケット料金設定や学生招待の実施、市域外からの来場による地域の賑わい創出 人材養成事業：音楽を通じた子どもたちの育成 普及啓発事業：公共ホールが地域コミュニティの中で果たす役割やその可能性を広げる活動が可能。 |
| <u>経済的意義</u> 興行的には厳しい芸術性の高い作品創作や鑑賞機会の提供 チケット価格の安価な設定や、無料の訪問コンサートの実施 市域外からの来場による地元商業施設への経済効果の発生 いずれもホール単体の事業費では事業の規模や質の維持が難しく、助成に値する意義が継続して認められる。 |

(2) 有効性

自己評価

目標を達成したか。

公演事業

【目標】オリジナル作品創造による北九州ブランドのPR、芸術性の高い公演鑑賞機会の提供、若者が芸術文化に触れる機会の促進、誰もが安心して来場できる環境づくり、公演鑑賞に伴う消費行動増加によるまちのにぎわいづくりへの貢献

創作オペラやオリジナルオーケストラ公演等により高い観客満足度を得られ、平成30年に制作した創作オペレッタは昨年度に引き続き他館で再演された。市域外からの来場者は近年30%台で推移しており、芸術性の高い公演へのニーズに応えるとともに、ジャズなどクラシック以外の公演によりホール主催コンサートを初めて訪れる層の増加にもつながった。地元大学との連携事業や、バリアフリー対応研修を実施したほか、引き続き英語の場内アナウンスや英語版マナーシート配布を実施した。来場者への地元グルメガイド配布により周辺店の利用増加につながっている。

人材養成事業

【目標】アーツスタッフ育成による地域文化の発展への貢献、音楽を通じた子どもたちの人材育成

中学校合唱講習会を実施し、子どもたちの合唱への意欲や向上心を喚起した。また、安全管理やバリアフリーなどの管理運営の基本的事項についての講座を実施した。3月には、アーツスタッフ人材養成講座の「クリエイション編」として、ダンス・音楽・演劇それぞれのワークショップを体験してもらったうえで、他のジャンルと掛け合わせてクリエイションを体験してもらうワークショップを企画した（新型コロナウイルス感染拡大防止のため中止。）。

幅広い層を対象にした人材養成により、地域の文化発展に貢献した。

普及啓発事業

【目標】響ホールをより身近に感じる人の割合を増やす、クラシック音楽に興味・関心を持つ観客を育成し音楽文化の振興を図る、誰もが安心して来場できる環境づくり、ホールへの来場が難しい方にも音楽文化を届ける、地域との連携・協働事業を通じてともにまちを創る仲間づくりを行う

市民センターや小学校などでの年間20回を超える地域訪問コンサートや、障害者就労支援施設や高齢者施設での訪問コンサートを実施し、地域の多くの方に生の音楽に触れる機会を提供することができた。ワンコイン・コンサートはリピーターも多くシリーズとしてのファンを多数創出し、クラシック音楽ファンの裾野拡大につながっている。YAHATA MUSIC PROJECTでは、近隣施設との連携事業を継続実施していく中で、それぞれの施設がもつノウハウを用い、八幡のまちでしか行えない文化の発信を行うことができた。

(3) 効率性

自己評価

アウトプットに対して、事業期間が適切で、当初の計画通りに進んだか。

アウトプットに対して、事業費が適切で、当初の計画通りに進んだか。

公演事業・普及啓発事業

響ホール リサイタル・シリーズでは、本公演前に地域訪問コンサート（4～5回）やアナリーゼ・ワークショップを実施。新型コロナウイルス感染拡大防止のため本公演を中止したものを除き、開催時期・回数とも当初の計画どおりに実施することができた。0才からの親子で楽しむクラシックコンサートについても、本公演の2カ月前に地域訪問コンサート（4回）を当初計画通りに実施した。

いずれも、単発の公演にとどまらず一定期間地域に滞在したり、複数回地域を訪れたりして行う文化芸術活動を目指し、当初の計画に沿った適切な期間で事業を行うことができた。

創作オペラでは、指揮者・歌手・俳優・オーケストラによる稽古を十分な期間実施することができ、また今回、初の試みとして公開稽古を実施することができた。

国際音楽祭プロデュース企画では、本公演のほか出演アーティストによる関連企画（中学生の鑑賞教室、高齢者施設訪問コンサートや幼稚園の鑑賞教室等）を当初の計画どおり実施し、国際音楽祭招聘企画においても、内容、予算規模のいずれも概ね当初の予定どおり事業を行った。

公演事業及び普及啓発事業では、上記を含む全13事業を実施し、新型コロナウイルス感染拡大防止のため本公演が1本中止となったこと等による経費の変更が生じたものの、全体としては事業規模の大きな変更もなく概ね当初計画どおりに遂行し、アウトプットに対して事業期間、事業費とも適切であった。

人材養成事業

アーツスタッフ人材養成講座（クリエイション編、基礎編）と中学校合唱講習会を実施。人材養成講座のクリエイション編については、新型コロナウイルス感染拡大防止のため中止したが、その他の2事業（人材養成講座基礎編及び中学校合唱講習会）については概ね計画どおりに遂行し、アウトプットに対して事業期間、事業費とも適切であった。

(4) 創造性

自己評価

地域の文化拠点としての機能を最大限に発揮する優れた事業であった（と認められる）か。

響ホールは1993年に開館し、昨年、開館25周年を迎えた。席数720席のシューボックス型ホールで、残響時間約1.8秒（満席時）と日本屈指の音響を誇る。

当ホールのある八幡東区は近代製鉄発祥の地として日本の産業の近代化を支え、ホール内装には、地元企業に特注したステージを囲む波状のガラスや煉瓦が使用されている。ホールの響きは、その構造や材質のほか、風土や刻まれた音によって作られるとも言われるとおり、市内唯一の音楽専用ホールとして、年月をかけてここにしかない響きや空間が育まれてきた。

クラシック音楽、特に室内楽や声楽に適したホールとして、開館当初から多くの公演を重ね、北九州国際音楽祭の主会場としても使用されている。

また、近年では創作オペラ・オペレッタの上演や、ダンス×音楽のジャンル融合的な企画にも積極的に取り組み、実演芸術の可能性の広がりを見せている。

当ホールでは、「地域の一員として『人』と向き合い『人』とともに新しい価値の創造と発信を行う」というミッションを掲げ、その達成を目指すべく「開かれた音楽堂」「出会いの音楽堂」「地域と向き合う音楽堂」「安全・安心な音楽堂」の4つの運営理念（※）に基づき、各事業を実施した。

【運営理念】

○開かれた音楽堂

あらゆる人に開かれた運営、幅広い年齢層に優れた芸術文化を体験できる機会を提供

○出会いの音楽堂

多彩な芸術文化との出会いを提供、芸術文化を通して人と人の出会いや交流を図る

○地域と向き合う音楽堂

芸術文化を地域と一緒に育む、積極的に地域の活性化や地域の文化振興に取り組む

○安全安心な音楽堂

ハード・ソフトの両面において常に万全の体制で取り組む、徹底した危機管理意識

公演事業では、0歳から入場できるクラシックコンサート、地域訪問コンサートと本公演をセットにした滞在型事業、創作オペラ公演、国際音楽祭での国内外のトップアーティスト公演など、地域で唯一の音楽ホールの特性を生かした上質な鑑賞事業を数多く実施した。

人材養成事業では、フロントスタッフの役割・業務を通して学ぶ安全管理研修や、バリアフリー研修の講座を、一般公募の参加者も対象に含めて実施し、地域の文化を支える人材の養成に取り組んだ。

普及啓発事業では、ワンコイン・コンサート等、地域住民が気軽に音楽に触れることができる機会の提供のほか、地元企業や近隣大学との連携事業に長期的に取り組む、地域とともにあることを強く意識した事業展開を行った。

各事業を通じて、地域の文化拠点としての機能を大きく発揮することが可能となった。

自己評価

地域の実演芸術等の振興など、地域の文化芸術の発展につながっていた（と認められる）か。

響ホールでは、音楽事業やホールに対する期待、ニーズの把握のため、市政モニターアンケートや来場者アンケート等を実施している。

北九州国際音楽祭事業では、新たな聴衆の開拓や芸術・文化による地域の発展等のため、市政モニターアンケートを実施し、得られた結果をもとに5つの柱を定め、公演だけでなく、人材育成や普及啓発の観点を含む全体スキームにより企画・運営に取り組んでいる。来場者アンケートでは、複数回音楽祭を訪れた方が8割近く、また、音楽祭をまた訪れたいと思う割合も98%と非常に高い満足度を得ている。

■北九州国際音楽祭 5つの柱

- ① 北九州プロデュース企画による創造と発信
- ② 海外オーケストラを聴ける機会の提供
- ③ 質の高いクラシック音楽の鑑賞機会拡大
- ④ 未来を担う子どもたちに音楽を
- ⑤ 広く市民が音楽に親しむ機会を

また、響ホール事業でも、公演アンケートによる要望等をふまえ様々な公演を企画。未就学児も入場可能なコンサートを求める意見に応えた「0才からの親子で楽しむクラシックコンサート」では、チケット販売率が9割を超えるなど、例年好評を得ている。クラシック音楽はハードルが高いなどの声に応えたワンコイン・コンサートは固定ファンも多く、ホールの認知度向上につながっている。

その他、多彩な事業展開により、地域の実演芸術の振興や文化芸術の発展に寄与した。

(5) 持続性

自己評価

事業を通じて組織活動が持続的に発展した（と認められる）か。

（公財）北九州市芸術文化振興財団は、響ホール及び北九州芸術劇場の2拠点において、劇場・音楽堂の管理運営を行っている。

北九州芸術劇場は、平成30年度に文化庁「劇場・音楽堂等機能強化総合支援事業」（5年間）に採択されており、響ホールの「地域の中核劇場・音楽堂等活性化事業」と合わせ、同一市内に両事業に採択された施設を有するのは、九州では北九州市のみである。

当財団は全体で約100人の職員が在籍し、事務職員は未経験者も含めて広く公募し、選考試験によって適性や能力を判断して定期採用を実施。OJTにより経験を積み、一定の実務経験を要件として選考された職員をチーフとして登用し、実務の要として人材育成を進めている。また、北九州芸術劇場との人事交流、研修の実施等による専門人材の育成にも取り組んでいる。

響ホールでは、公演事業・人材養成事業・普及啓発事業の各事業について、以下の事業コンセプトに沿って実施した。

創　　る：音楽文化の創造と発信

育　　つ：地域の人々とともに育つ

聴　　く：暮らしを彩る多彩な音楽公演

支　　える：市民の音楽活動の支援

つながる：地域住民や関係団体等との交流・連携・協働による事業展開

特に公演事業においては、音楽専用ホールである響ホールの特性と、劇場の有する舞台技術や公演ノウハウなどをともに生かした企画（創作オペラ）に取り組むなど、2拠点を有する財団としての活動に更なる発展が見られた。

そのほか、人材養成事業や普及啓発事業においても、地元の大学や公的機関と連携した事業運営により、地域に根差した継続的な活動を行った。

また、資金の確保について、これまでも各種助成金を含む外部資金の獲得に努めてきたが、公演事業・普及啓発事業におけるオリジナル作品創作や良質な鑑賞機会の提供の増加、クラシック音楽ファン層の裾野の拡大が、将来的なチケット収入の増加にもつながるものと考えている。

引き続き、地域特性やニーズに沿った事業計画を立て、成果を検証しながら、地域に根差した音楽堂としての機能強化に取り組みたい。